



# 湯河原ロータリークラブ

## WEEKLY REPORT



### 人類に奉仕する ロータリー

第 2653回 例会  
平成28年11月18日(金)  
天候 晴れ  
合唱 我らの生業  
四つのテスト

会 長 望月 博文  
幹 事 室伏 学

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上566湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
例会場 静岡県熱海市泉107 ニューウェルシティ湯河原  
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401  
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

### 会長挨拶

無駄な長時間労働や有給ゼロが美德の時代は終わった

■ 仕事ができる人はしっかり休む！

来年2016年から有給休暇を今よりも取得しやすくするための法が施工されることになったわけですが、それでも世界的にみれば我々日本人はまだ働き過ぎで、このため日本の会社では未だに長時間労働や休まないで働く人を「仕事ができる人」という間違っただけの考えが根強く浸透しています、しかし、実際にはそんなことはなく効率的に有給休暇をとっている人のほうが「仕事ができる人」であることがすでに欧米では研究によって実証されています。ちなみに生産性は31%、売り上げは37%、そして創造力は3倍以上にも増加したことが明らかになったことから、欧州の会社は今後さらに労働時間を短縮するのだとか。しっかり休むことによって、社員のプライベートの充実を測ることによって、モチベーションの向上や生産性向上となるので、会社の業績を上げる原動力となるわけです。最初から仕事量と休む割合を社員が一人一人しっかり熟考すれば、会社の生産性は自ずと上がるのだとか。これを無視して働くとかえって生産性が落ちてしまうわけです

■ 日本人は本当に働き過ぎ！

有給休暇の消化率について、24カ国を対象に調査したところ、日本人は6年連続で世界ワースト1位という不名誉な記録を更新しています。賃金に換算すると本当に悲惨です。過労死という言葉が世界の共通語になってしまうほど、日本の労働者は責任感と使命感が強いわけですが、もっと個人の生活を充実させてもバチは当たりません。小池百合子新都知事は、職員による午後8時以降の残業禁止宣言し、大きな話題となっています。これに呼応して職員一人一人が残業を減らす努力をし、午後8時に一斉消灯を実施しているようです。時代は確実に労働時間の短縮方向へ動いています。

### 幹事報告

第9グループガバナー補佐より

1. 研修リーダーセミナーにおいて、後藤PGより紹介されました定款細則変更の新旧比較書類を地区から送付を受けましたのでご参考にご覧ください。

湯河原新聞より

1. 年賀広告掲載のお願い  
広告料：5,000円

神静民報社より

1. 第9グループ連名の年賀広告のお願い  
広告料：10,000円

連絡事項 無し

### スマイルBOX

夫人誕生日 杉山茂久君(由佑子様・11/20)  
入会記念日 平間章弘君(21年・H7.11.24)  
根本克彦君(箱根RC)

箱根ロータリークラブのサッポロビール根本です。転勤したてで、これからお世話になります。ご指導宜しくお願い申し上げます。湯河原は気候もお人柄も温かいです。

西山敦君 11月13日、湯河原睦40周年記念式典に出席致しました。

出席報告	ゲスト 1名	ビジター 1名	会員24名
	欠席4(免除者1名)		前回の修正出席率86.96%
	出席率86.96%		前々回の修正出席率100.0%

事前メイクアップ 1名

ゲスト 高屋景一様(ロータリー財団学友・スポンサー 鎌倉北RC)  
ビジター 根本克彦様(箱根ロータリークラブ)

土屋一弘君

代講 国際親善奨学生 2001-2003年 鎌倉北RC高屋景一様  
カナダには5年半滞在した。たいへん恵まれた期間だった  
と思う。

国際親善奨学金がなければ、行くことはできなかった。  
まずはロータリーに感謝したい。加えて留学先の指導教官、  
キエラン・イーガン教授は、日本から突然やってきた私の  
学問的な指導に加え、研究資金や仕事まで面倒を見てくれ  
た。私の書いた論文に細かく目を通してくれ、内容につい  
てのアドバイスとともに、英語を直してくれた（現在でも  
英語で出版する際には、頼めば必ず目を通してくれる）。  
そのおかげで、これまでずいぶんたくさんの論文を出版で  
きた。また、このようにして自分の文章を細かく直してもら  
うことを通じて学んだ英語は、現在勤務校で英語の指導  
をする際にたいへん役に立っている。

カウンセラーのパム・リッキーは、偶然にも私が入学し  
たサイモン・フレーザー大学の学生で（一般に mature  
students とか non-traditional students とされるが、  
年をとってから大学に戻る人がアメリカやカナダにはかな  
りおり、パムもその一人だった）、彼女が設立した  
Mature Students Club に誘われて、様々な経験を持つ  
様々な人たちと毎週昼食をとりながら話すことができた。

当時、バンクーバーには毎年10人前後の奨学生が来てい  
た。一番多かったのは日本人だが、ドイツ、韓国からの奨  
学生も数名いた。数名とは今に至るまで交流がある。カウ  
ンセラーの方針にもよるが、奨学生が多いためか、卓話の  
機会はそれほどなかった。ただ、地元のいくつかのロータ  
リークラブが行っていたボランティアには積極的に参加し  
た。比較的貧しい地域のとある小学校で基金を募るため  
のガレージセールは、毎年手伝わせてもらった。その小学  
校では、学習障害を持つ生徒のための補助的学習プログラ  
ムも手伝った。

地元の剣道の道場（練武道場）に参加し、後にはサイモ  
ン・フレーザー大学でもレクリエーションプログラムで剣  
道を教え始めた。後者は現在ではクラブになっている。

（練武道場に初めて行った日、付近の道がわからずうろ  
うろしていた私と一緒に親切に道場の場所を探してくれた、  
近所の教会員の人のことも覚えている。）

先に書いたように、私はたいへん恵まれていたと思う。  
それほど恵まれなかった留学生の例もいくつか知っている  
ので、余計に幸運に感じられる。

確かに運不運はあるが、やはり留学に出ることは様々な  
可能性を広げてくれる。計画していたことを成功裏に達成  
できる場合もあれば、予想外の出会いや機会に恵まれるこ  
ともある。ただ、いずれにせよ言えることは、思い切っ  
て出かけてみなければ何も始まらないということである。  
様々な理由により、留学に出ようか出まいか迷っている学  
生は多い。私の勤務校で、留学を迷ったり諦めたりする一  
番の理由は金銭的な事情である。かく言う私も、国際親善  
奨学金に採用される前年、サイモン・フレーザー大学から  
合格はもらっていたのだが、お金がないために入学を一年  
待ってもらっていた。その間にロータリーに応募し、採用  
された。それでも留学先でお金が足りなくなることはほぼ  
目に見えていたのだが、運を天に任せて渡加したところ、  
イーガン教授が面倒見のいい人であり、かつ研究資金を獲  
得することにも長けていたために、何とかだった。幸運は、  
挑戦して見なければ舞い込んでこない。そこで、挑戦する  
意欲がある若者に、ちょっとした援助と励ましを与える団  
体として、ロータリーの奨学金は大きな意義をこれまで  
持って来た。



勝手な思い込みかもしれないが、ロータリーの良い  
ところは、もう一つ、奨学金を受けた者に成果を急か  
さないということだ。たしかに、応募の際には具体的  
な目標を明らかにすることが求められる。しかし、留  
学中ないし帰国後すぐに具体的な成果を上げることを  
必ずしも求めるわけではなく、長い時間をかけて成長  
することを見守ってくれる。さらに、申告した研究目  
的の外に、幅広く交流し経験を得ることを奨励してい  
る。このような、言わば懐の深いプログラムは、今日  
貴重だと思う。ぜひ長く続けてほしい。

## 卓話者プロフィール

氏名：高屋景一（たかやけいいち）

住所：東京都杉並区西荻南3-7-2

電話：03-6762-9400

勤務先：國學院大學文学部

国際親善奨学生（2000年 マルチ・イヤー3年）

推薦クラブ：鎌倉北RC

ホストRC：Burnaby Deer Lake RC / Vancouver

Quadra RC (British Columbia, Canada)

留学先：サイモン・フレーザー大学 (Simon Fraser  
University) 大学院

2000年8月より、国際親善奨学生として渡加。サイモ

ン・フレーザー大学大学院博士課程にて教育学を専攻。

2004年9月に「教育における想像力の意義」の研究で

Ph. D. を取得。その後同大学非常勤研究員・非常勤講

師などを経て、現在、國學院大學文学部（外国語文化

研究科）准教授。主に英語の授業を担当。

カナダ滞在中にサイモン・フレーザー大学に剣道プロ

グラム（後、剣道クラブ）を共同で創設。剣道六段。

著書：

(1) Kieran Egan, Maureen Stout, and Keiichi  
Takaya (Eds.)Teaching and Learning outside the Box: Inspiring  
Imagination Across the Curriculum (Teachers  
College Press, 2007)(2) キエラン・イーガン著、高屋景一・佐柳光代訳  
『想像力を触発する教育：認知的道具を生かした授業  
づくり』（北大路書房、2010）